

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成に対する理念等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

① 大学

本学は、昭和35年4月に九州商科大学商学部商学科の単科大学「九州商科大学」として発足した。その後、昭和38年に工学部の設置とともに校名を「九州産業大学」に改称、昭和41年に芸術学部、昭和43年に経営学部、平成5年に経済学部、平成6年に国際文化学部、平成14年に情報科学部を設置した。その後、改めて時代のニーズ等を踏まえ、平成28年に芸術学部の学科再編、平成29年に工学部、情報科学部を再編した理工学部、生命科学部、建築都市工学部の設置、平成30年度に商学部、経営学部を再編し、新たな商学部、地域共創学部を設置した。また、同時に設置認可申請により、人間科学部を設置した。令和5年4月現在、9学部21学科、5研究科11専攻（博士前期課程6専攻、博士後期課程5専攻）を有する大学となっており、引き続き「文理芸融合のグローバル総合大学へ」をスローガンに、改革を進めながら教育に取り組んでいる。

本学は、建学の理想を「産業と大学は、車の両輪のように一体となって、時々の社会のニーズを満たすべきである」とする「産学一如」と定め、「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」を建学の理念として掲げている。これは、「視野が広く、とらわれない精神と優れた判断力を持ち、社会において指導的役割を果たすことができる人材を育成する」ことを表している。

この建学の理想と理念に導かれた「本学の目指す教育」は、次の3点である。

ア 創造的能力を伸ばし、理論に偏ることなく応用技術を身につける教育

イ 自国の文化とともに世界の多様な文化を理解し、これに対応できる感性を養う教育

ウ 九州という立地を活かし、アジア・太平洋地域に目を向けた教育

② 学科等（教職課程を有する学科のみ）

理工学部機械電気創造工学科

理工学部機械電気創造工学科では、上述の本学が目指す教育のもと、次のとおり、人材育成目標を掲げている。

ア 工学分野の基礎をなす機械工学と電気電子工学にまたがる学際的な知識を有し、創造的で柔軟な問題設定能力及び課題解決能力を備えた人材を養成する。そのためには、ロボティクス、半導体技術、IoT、エネルギーシステム、スマート製造、環境問題など現代社会が直面する多様な技術的課題に対応した革新的製品やシステムを開発できる技術スキルに加え、持続可能な社会の構築に貢献できる倫理観や工学的センスを有する実践的な技術者の輩出を目指す。

イ 複雑化・高度化する現代の技術的課題に対応するため、工学分野の基盤を成す機械工学と電気電子工学の知見を併せ持ち、創造的で柔軟な問題解決能力を備えた技術者を養成する。このような人材の育成を通して、機械と電気電子の技術を融合した革新的な製品やシステムを開発し、産業界のニーズに対応するとともに、持続可能な社会の実現に資することを教育研究上の目的とする。

(2) 教員養成の目標・計画

① 大学

本学の教員養成は、「私立大学における教員養成」と「開放制の教員養成」の原則により、こ

れまで特色のある質の高い教員養成を行ってきた。

教育分野では、中学校・高等学校の主要5教科、美術・工芸・工業・商業・情報の免許状取得者に加え、幼稚園、特別支援学校（知・肢・病）の免許状取得者を輩出している。幼児教育から高等教育まで幅広い人材の育成に取り組んでおり、多数の卒業生が九州を中心とした学校現場において活躍し、社会的役割を果たしている。

また、令和3年3月12日に開催された中央教育審議会総会において「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の諮問が行われ、「『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」が取りまとめられた。そのため、教師の養成を担う本学としては、令和の日本型学校教育を具現化すべく、以下の目的に重点を置きながら、全学的な協力・指導体制をもって取り組み、わが国の次世代の担い手に対して相応しい人材養成を目指している。

・教育者にふさわしい人間性の育成

多様な学修に基づく専門的職業人としての知識・技能を教育現場において活かすためには、教員としての基本的資質、すなわち人と深く関わることのできるコミュニケーション能力や協調性及び教育者としての使命感を備えていることが前提となる。

本学では、平成26年度から教養を身につけグローバル社会で活躍できる心身共に健全な人間教育の実現のために導入した「KSU基盤教育」において、基本的資質に裏づけられた教育者を育ててきており、令和4年度には、芸術学部を有する本学の特色を活かした「文理芸融合科目」群を設け、より一層幅広い資質を持った人材の育成に取り組んでいる。

・教員に求められる専門性、実践的指導力の養成

今日のように多様な個性を持つ幼児児童生徒を対象に教員としての職責を全うするためには、様々な課題を持つ子どもと向き合い具体的かつ効果的な指導や援助ができなければならない。そのため本学では、各学科の専門分野に関する総合的な知識・技能と学科間の連携による他分野の幅広い知識・技能の修得を可能にするカリキュラムを整備するとともに、各種ボランティア活動等の実践的な教育活動への参加を通じて専門性と実践的指導力を持つ教員を養成する。

・自らの資質を向上し続け、正解の見えない問題を解く力と自己教育力の獲得

変化の激しい現代社会にあっては、教育者としての知識及び技能を生涯にわたって高めていくことが求められる。本学では主体的・対話的で深い学びを重視し、アクティブ・ラーニング又はPBL教育を展開する「KSUプロジェクト型教育」において、学生の「正解のない問題を解く力」を育成する。さらに、同教育において「実践力」、「共創力」、「統率力」を身につけることにより、学生の自立的志向を高め、自らの資質を向上し続けるための不断的努力を可能にする自己教育力を養成する。

② 学科等

本学の目指すべき教師像は「高い専門性を持ち、他者と関わりながら実践・学修し続ける教師」としている。具体的には「論理的思考力」、「表現力」、「コミュニケーション力」、「感性力」、「実践力」の5つの能力に加え、他者と関わり合いながら学修し続ける力を教職課程において身につけるべき必要な能力として定義している。

上述の目標を達成するために、特定の専門に留まらない広く総合的な複数の専門分野の学修から得られる多様で幅広く豊かな学識を有し、生徒の教育に従事・貢献できる教員の養成を目指す。

理工学部機械電気創造工学科

機械電気創造工学科では、情報科学・機械工学・電気工学及びこれらを横断・融合した情報メカトロニクス分野における理論と技術（専門技術力）、高い知性と豊かな感性により多様な分野を横断して新たな価値を創出できる力（コミュニケーション力と社会実践力）を習得し、社会と文化の創造に貢献できる教員の育成を目指す。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（免許教科・学科等ごと）

中学校教諭一種免許（技術）

既設学科の機械工学科及び電気工学科は、令和6年12月に中学校教諭一種免許（技術）の課程認定を受けたばかりであった。この両学科の融合により新設される機械電気創造工学科では、工学分野の基礎をなす機械工学と電気電子工学にまたがる学際的な知識を有し、創造的で柔軟な問題設定能力及び課題解決能力を備えた人材を養成し、ロボティクス、半導体技術、IoT、エネルギーシステム、スマート製造、環境問題など現代社会が直面する多様な技術的課題に対応した革新的製品やシステムを開発できる技術スキルに加え、持続可能な社会の構築に貢献できる倫理観や工学的センスを有する実践的な技術者の輩出を目指している。

これら機械工学と電気電子工学にまたがる学際的な知識の修得によって幅広く工業社会に寄与することができ、さらにコミュニケーション能力、企画力、提案力などを兼ね備えた教員の養成を目指し、中学校教諭一種免許（技術）を取得できる課程を設置する。

高等学校教諭一種免許（工業）

既設学科の機械工学科及び電気工学科は、高等学校教諭一種免許（工業）の課程を有していた。この両学科の融合により新設される機械電気創造工学科では、工学分野の基礎をなす機械工学と電気電子工学にまたがる学際的な知識を有し、創造的で柔軟な問題設定能力及び課題解決能力を備えた人材を養成し、ロボティクス、半導体技術、IoT、エネルギーシステム、スマート製造、環境問題など現代社会が直面する多様な技術的課題に対応した革新的製品やシステムを開発できる技術スキルに加え、持続可能な社会の構築に貢献できる倫理観や工学的センスを有する実践的な技術者の輩出を目指している。

これら機械工学と電気電子工学にまたがる学際的な知識の修得によって幅広く工業社会に寄与することができ、さらにコミュニケーション能力、企画力、提案力などを兼ね備えた教員の養成を目指し、高等学校教諭一種免許（工業）を取得できる課程を設置する。

以上

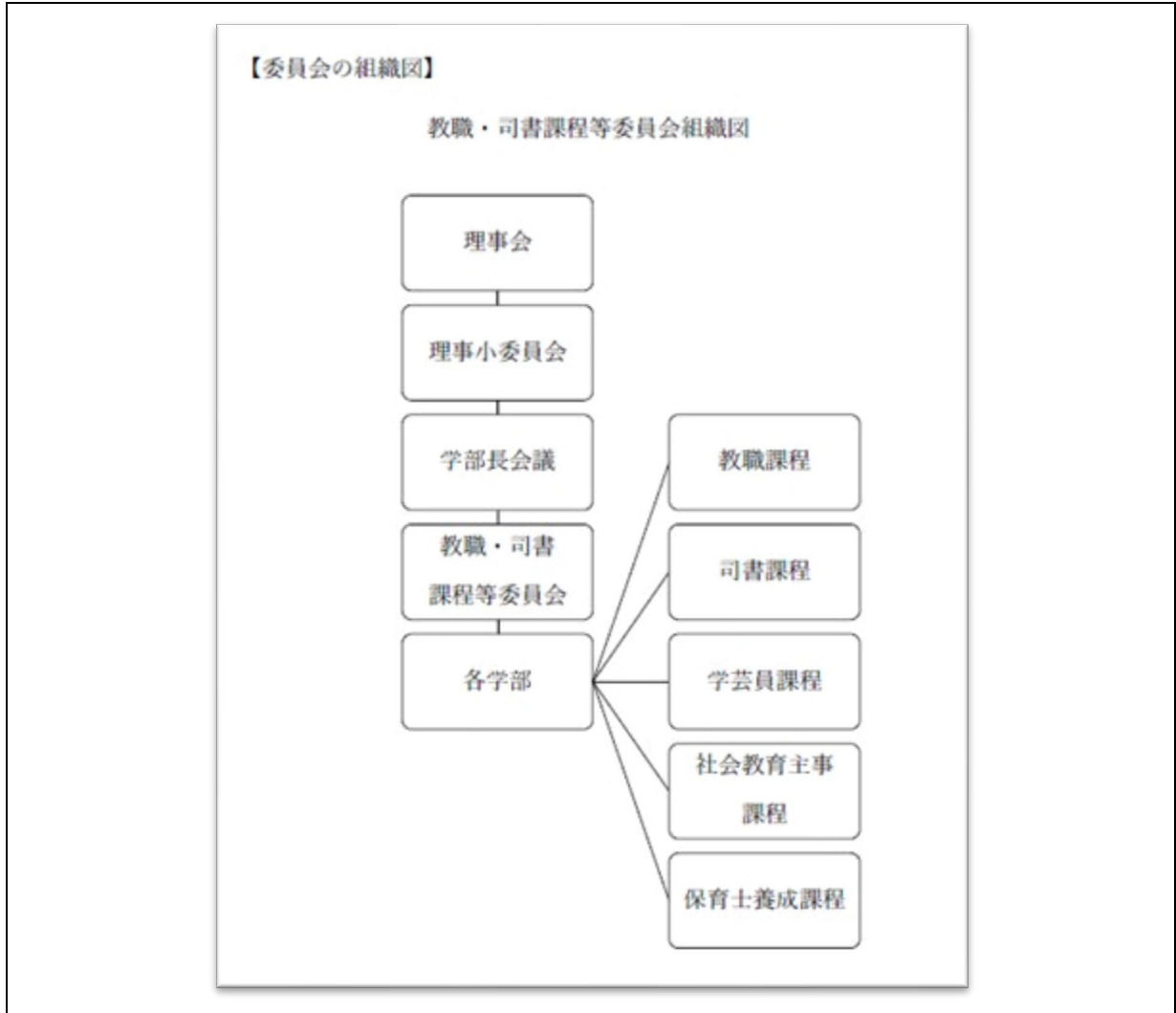
I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職・司書課程等委員会
目的：	教職課程、図書館司書及び司書教諭課程（以下「司書課程」という。）、学芸員課程、社会教育主事課程並びに保育士養成課程に関する事項を審議する。
責任者：	教務部長
構成員（役職・人数）：	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教務部長 (2) 教職課程主任及び司書課程主任 (3) 人間科学部子ども教育学科主任 (4) 教職専門科目、司書課程、学芸員課程及び社会教育主事課程担当の専属教員から委員長が指名した者 (5) 各学部から選出された委員各1名 (6) 委員長が指名する者若干名
運営方法：	<p>本委員会は、次の事項を審議する。</p> <p>I. 教職課程に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教職課程履修規程に関する事 ② 教職専門科目及び教科専門科目の年次配当に関する事 ③ 教育実習に関する事 ④ 教職課程認定申請に関する事 ⑤ 教職課程履修者の免許状取得所要単位の合否判定に関する事 ⑥ 教職課程の科目等履修生に関する事 ⑦ その他教職課程に関する事 <p>II. 司書課程・学芸員課程・社会教育主事課程に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目履修規程に関する事 ② 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目の授業計画に関する事 ③ 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目履修者の修得単位の確認に関する事 ④ 司書課程科目・学芸員課程科目・社会教育主事課程科目の科目等履修生に関する事 ⑤ 講習会に関する事 ⑥ その他司書課程・学芸員課程・社会教育主事課程に関する事 <p>III. 保育士に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保育士に関する履修規程に関する事 ② 保育士養成課程の授業計画に関する事 ③ 保育実習に関する事 ④ 保育士養成課程の申請に関する事 ⑤ 保育士養成課程科目履修者の修得単位の確認に関する事 ⑥ 保育士養成課程科目の科目等履修生に関する事 ⑦ その他保育士養成課程に関する事

様式第7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

①教職実践演習において、本学の教職課程における実践的指導力の育成の観点から、中学校及び高等学校教員と連携した授業を実施するため、県内の中学校及び高等学校に連携協力を依頼し、次のような取組を行っている。

- ・県内の中学校及び高等学校教員を招いた講演会の実施

現職教員を講師として招聘し、学生に対して演習を交えた講演を依頼している。学校現場の中核として活躍している現職教員の講話を直接聞き、ディスカッションすることで、今後教員としての実践的指導力を育む上で大変貴重な経験ができた、受講生からの評価も高い。

- ・近隣の高等学校での授業見学

高等学校の教育現場における実際の授業を参観させてもらっている。取得希望の免許教科ごとに訪問先（普通科、工業科）を分け、教育実習期間中には見学することのできなかった現場での指導を見学し、学生が授業実践力の基礎を育む上で貴重な経験となっている。

②本学では、幼稚園教諭と特別支援学校教諭の「免許法認定講習」を令和3年度から実施している。令和3年度は「幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業（幼稚園教諭免許法認定

様式第7号イ

講習等の在り方に関する調査研究)、令和4年度～令和6年度は「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業(幼稚園教諭免許法認定研修等の在り方に関する調査研究幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業)」の委託事業に採択された。委託事業実施にあたって、「検討委員会」を設置し、福岡県教育庁義務教育課長、福岡市教育委員、福岡市東区幼稚園長会支部長等に外部委員として就任いただいている。「検討委員会」では、免許法認定講習の実施策策定のみならず、福岡県が抱える「喫緊の課題」について議論を行うなど、教育の最新事情に取り組む機会となっている。

- ③本学では、平成30年6月に「九州産業大学教職ネットワーク」(以下「本会」という)を発足させた。本会は、会員相互の親睦、研修を図り、教育の発展と人材の育成に寄与することを目的としている。会員は、本学卒業生で教育機関での勤務経験を有している者、教職課程を履修している在学生、本学卒業生で教育職員免許状を有している者と、本学での勤務経験を有する教職員である。年1回の総会をはじめ、研修会を通じて会員相互の親睦を図るとともに、教員の仕事の魅力を在学生に伝えること、教員の求人情報交換を通じて、教員という仕事の魅力発信と在学生の「教員として働くこと」のロールモデルの構築に努めている。現会長は、久留米市立久留米商業高等学校長(本学卒)が務めている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 学生サポーター制度
連携先の調整方法： ①福岡市教育委員会と「学生サポーター制度」の協定に基づき、担当教員が事前説明会を行い、学生募集を行う。 ②学生からの申込受付後、担当教員が面接を行う。 ③大学から提案された「受入プラン」から活動先の学校を決定する。 ④活動先が決まったら、活動先となる学校と活動日時や活動内容について打合せを行う。
具体的な内容： 平成16年度から福岡市教育委員会と協定を結び、大学の派遣計画に基づき、福岡市立の小・中学校、幼稚園に学生を派遣し、授業の補助や部活動の支援など、教育現場で教諭の補佐役として様々な教育活動に参加する教育ボランティアおよびインターンシップの両要素を併せ持つ制度である。本学では、単位認定が伴う科目「学生サポーター」として開設している。授業補助業務のほか、遠足や運動会等の学校行事、さらに昼休みの図書の読み聞かせや放課後のクラブ活動等に取り組んでおり、具体的な体験内容は派遣先学校との調整によって決定している。 単位取得の具体的な要件は、①通年または後期に合計30時間以上の現地活動、②現地活動前の事前研修、③活動期間中の中間報告会、④現地活動終了後の報告会における発表及び⑤研修報告書の提出である。 なお教育実習同様に子供に大きな影響を与えることが予想されるため、希望者は説明会に参加し、エントリーシートと成績表の審査及び面接によって履修の可否を決定する。また報告会は、関係教職員等も参加し、意見交換を行う。学生達は、実社会の教育現場での経験が自己の成長に大いに役立っている。

様式第7号イ

取組名称：	福岡県不登校児童生徒支援強化事業（ラーニングサポーター事業）（福岡県）
連携先の調整方法：	①福岡県教育庁義務教育課教育相談室から募集要項が届く。 ②募集要項に基づき、大学側からボランティア希望学生を福岡県教育庁に推薦する。 ③福岡県教育庁と採用された学生が直接連絡を取り合いながら、活動を行う。
具体的な内容：	本取組は、令和4年4月から施行された「福岡県不登校児童生徒支援強化事業実施要項」に基づき、福岡県内の4大学（久留米大学、福岡教育大学、福岡県立大学、本学）が実施している。大学生ボランティアが、十分な個別支援を受けられていない不登校児童生徒に対して、「オンライン」による学習支援や相談活動を継続する中で、教育支援センター等への通所や、学校への登校等、社会的な自立に向けた支援を行うことを目的としている。活動形態は、月曜日から木曜日（9時～17時）のうち、1回1時間を単位として、福岡県教育庁がボランティア学生と不登校児童生徒をマッチングして実施している。この活動により、社会的な自立に向かった児童生徒もいたという報告を福岡県教育庁から受けている。また、教員を目指す学生にとっても支援方法を学ぶ機会となり、好循環が生まれている。

取組名称：	ふくおか教員養成セミナー
連携先の調整方法：	①福岡県教育センターと実施方針について協議する。 ②福岡県教育センターが作成したスケジュールに基づき、本学側は使用教室・機材の準備を行う。 ③セミナー参加者の募集は、福岡県教育センターが行う。
具体的な内容：	「ふくおか教員養成セミナー」は、福岡県の公立学校教員を目指している、または興味を持っている学生に、職業としての教員の魅力や職務内容を伝えるものである。現役教員の講話や懇談などを通じて、教育実践に触れる機会を提供しているセミナーである。福岡県内の大学生で小・中学校教員を志望している者が対象で、本学学生も参加している。 本取組は、平成24年3月に締結した「ふくおか教員養成セミナーに関する協定書」に基づき、福岡県教育委員会と本学が連携協力して実施している。 令和5年度、令和6年度は本学で開催された。

取組名称：	福岡市「学習指導員派遣事業を活用した就業体験」
連携先の調整方法：	福岡市教育委員会が募集している学習指導員（有償ボランティア）に希望学生を大学側が紹介し、受入先と学生が活動時間（週10時間程度、年間350時間）を調整して活動している。
具体的な内容：	本取組は、福岡市教育委員会指導部学校企画課が主導となって実施している。活動内容は、授業時間中（体育以外）の指導補助が中心であり、本学近隣の中学校で学習指導員が不足していた現状もあり、本学学生が活動に参加している。授業時間中の指導補助が中心となることから、学生が児童生徒の支援方法を実地で学ぶ機会となっている。また、受入学校側、教育委員会からも高い評価を得ている。

様式第7号イ

取組名称：	福岡県「部活動指導員制度を活用した就業体験」
連携先の調整方法：	<p>①年度初めに協力校（香椎高校・香椎工業高校・香住丘高校）等からの部活動指導員（部活名・人数）の要請を受ける。</p> <p>②教職課程履修者の希望調査を踏まえた候補者名簿の中から候補者を選定し当該校に紹介する。</p> <p>③当該校が学生の面接を行った上で福岡県教育庁に申請し、学生は研修を受けて業務にあたる。</p>
具体的な内容：	<p>本取組は、平成29年度4月1日施行された「部活動指導員制度」を活用し、福岡県教育委員会と本学近隣の協力校（福岡県立香椎高等学校・福岡県立香椎工業高等学校・福岡県立香住丘高等学校）と本学が連携して実施している。本学教職課程履修者の部活動経験者等を紹介することによって、協力校の課題解決に寄与するとともに、当該生徒の教職志向と指導力の向上を図るものである。</p> <p>本取組の1期生に当たる令和2年度入学生4名の内3名は教職を目指すことになり、当該高校の顧問・部員に対するアンケートにおいても高い評価を得ている。</p>

Ⅲ. 教職指導の状況

<p>1年次生対象に教職ガイダンスを前期に1回、後期に1回、計2回開催している。各学部・学科で取得可能な教員免許状、教員免許状取得要件等の教職課程を履修していく上で必須となる規程や教員採用の現状等を説明し、教員志望の意識づけを行っている。</p> <p>年度初めには学年別の教職ガイダンスを開催し、4月からの教職課程履修における注意点や履修カルテの入力に関する項目の説明、今後の日程や教員免許状取得要件の再確認を行っている。</p> <p>中学校免許取得に必要な「介護等体験」に関しては、該当学生にガイダンスを実施したのち、本学教職専任教員が中心となって独自に制作した「介護等体験事前指導」動画を視聴させ、特別支援学校、社会福祉施設の概要、体験時の心構えを修得させている。</p> <p>教職課程支援室では、教職専任教員及び教務課担当職員が中心となって履修指導や各種相談を行うとともに、週1回オフィスアワーを開設している。</p>

様式第7号ウ

＜機械電気創造工学科＞（認定課程：中一種免（技術））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	機械工学、電気電子工学及び情報システムの基礎的な知識と技術を修得する。また、教職課程ガイダンスを受講し教職課程の履修方法やカリキュラムの全体像を把握するとともに、教職に対する意欲や関心を高め、教員に求められる情報活用及び外国語コミュニケーションに関する基礎的な知識や技能を身につける。
	後期	機械工学の専門の基礎となる4つの力学（材料力学・機械力学・熱力学・流体力学）の基礎的な概念を理解し、電気回路、プログラミングに関する基本的な法則と理論の正しい理解や分析方法を修得する。さらに、憲法の意義や役割を理解するとともに、体力の増進を図り、心身ともに健康な生活習慣を身につけ、スポーツの意義を学ぶ。また、教職の意義や教員の職務内容を理解するとともに、教員免許状取得後の進路選択についても具体的に考え、高等学校教員に求められる心理学的知識や生徒理解に関する基礎理論を修得する。
2年次	前期	工作機械を使用し、機械やロボットの部品の加工方法を身につけるとともに、交流回路の法則、解析方法および二端子対回路を学び、直列、並列や複合された電気回路に関する基本的な法則と理論の正しい理解、電気回路の分析方法を修得する。また、「栽培」において生物育成についての知識を身につける。加えて、工業概論によって、工業についての全般的な知識を修得する。さらに、教育の理念や教育に関する歴史及び思想を学び、教育という行為を原理的に把握する。併せて、教育課程の意義を理解するとともに、学習指導要領の内容や歴史、動向を学び、高等学校のカリキュラム編成に必要な方法論を修得する。また、高等学校における生徒指導や進路指導の理論及び方法を修得し、現代の子どもたちが抱える諸問題を具体的に理解する。
	後期	機械やロボットを設計する際における、部品の運動、熱の伝わり方や液体・気体の流れなどについて、応用的な内容及び送配電技術等の電力技術及び導電性材料等の電気材料技術に関する基礎知識を修得する。また、木材を中心とした素材についての知識を深めるとともに、工作等を通じて加工技術について理解する。さらに生徒の自主的かつ主体的な活動を促す理論と方法を修得し、生徒指導に関する発達心理学的知識を獲得する。なお、道徳教育に関する基礎理論を学ぶとともに、道徳の指導法を身につける。
3年次	前期	機械やロボットを設計する上でのより専門的な知識を修得するとともに、機械やロボットの運動やその制御に関する技術を修得する。また、通年科目の「職業指導」によって職業の基本的・応用的知識（キャリア発達・教育）を修得する。さらに板書やあいさつの練習を重ねることによって、教育実習生として当然身につけておくべき適性や資質能力を獲得する。併せて、将来教員として生徒や保護者と教育相談を行う際に必要なカウンセリングの理論と技法を身につけ、指導案作成や教材研究の方法を学んだ上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力を養う。
	後期	4年生に配当されている卒業研究を実施するうえで必要な、文献等から情報を収集する能力や問題発見能力、ならびに問題解決能力を身につける。さらに、現代日本の教育制度を支えている教育法規の内容や意義を正しく理解するとともに、教員として必要な遵法精神を身につけ、西洋の教育史を専門的に学ぶことによって、現代及び今後の教育のあり方を模索するための知見を得る。さらに、自ら計画的に指導案作成や教材研究をすすめた上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力をさらに向上させる。
4年次	前期	実習生としての心構え・実習に関わる文書作法・コミュニケーションの流儀などを教育実習前に学ぶとともに、教育実習中の教科指導や生徒指導の経験を事後的にディスカッションするなどして、教育実習という貴重な経験をより充実したものとする。また、教育実習中は、学校教育の現場に身を置きながら教員としての適性を自ら厳しく審問するとともに、教員として必要不可欠な実践的指導力の基礎を修得する。
	後期	履修カルテを活用しながらこれまでの教職課程における学びを振り返るとともに、授業参観・模擬授業・ロールプレイング・現職教員による講義などの実践的なプログラムを通じて、教員として最小限必要な資質能力を身につける。また、教育実習を振り返り、教育実習中の自己を分析、評価することで、教員としての自覚を養う。

様式第7号ウ（教諭）

＜機械電気創造工学科＞（認定課程：中一種免（技術））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		情報リテラシー		日本国憲法A	基礎数学
					スポーツ科学演習A	基礎物理
					Listening & Speaking I	プログラミング基礎 I
					Four Skills I	物理実験
					TOEIC Basic A	機電工学基礎
					TOEIC Plus A	
					AI導入	
					プログラミング導入	
	後期	教職論	機械四力学基礎		日本国憲法B	機電数学
		教育心理学	電気回路 I		スポーツ科学演習B	デザインエンジニアリング
			プログラミング基礎 I		Listening & Speaking II	人間中心設計
			機電プログラミング		Four Skills II	映像表現
					TOEIC Basic B	メディアアート
					TOEIC Plus B	エンジニアスキル
2年次	通年	技術科教育法				
	集中	教育社会学	生物育成			
	前期	教育原理	材料力学 I		Listening & Speaking III	プロダクトデザイン基礎
		教育課程論	機械加工学			プロダクトデザイン演習
		生徒指導論(進路指導を含む)	機械製図			WEBデザイン
		学校発達心理学	メカトロニクス			アプリデザイン
			メカトロニクス実習			物理学
			電気電子基礎実験 I			エネルギー学 I
			工業概論			流体力学
			電気回路 II			通信システム工学
	後期	道徳教育論	材料加工		Listening & Speaking IV	技術者倫理
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	材料力学 II			電気工事実習
			機械材料			エネルギー学 II
			電気電子基礎実験 II			3Dモデリング
		電気エネルギー概論			機械加工実習	
		制御工学			デジタル回路	
3年次	前期	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	機械工学実験	同和教育論	English Plus A	伝熱工学
		教育相談の方法・技術	AIリテラシー		English Expressions A	コンピュータグラフィックス応用
		教科指導法 I (技術)				半導体デバイス工学 I
						電子デバイス工学実験
	後期	教育制度論	材料力学 III	教職特講	English Plus B	エネルギー変換工学
		教科指導法 II (技術)			English Expressions B	機械工学シミュレーション
		特別な教育的ニーズの理解とその支援				ロボット機構学
						機電工学探求
4年次	集中	教育実習事前事後指導				
		教育実習 I				
		教育実習 II				
	前期					機械・ロボット設計
後期	教職実践演習(中・高)				設計製図	

様式第7号ウ

＜機械電気創造工学科＞（認定課程：高一種免（工業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	機械工学、電気電子工学及び情報システムの基礎的な知識と技術を修得する。また、教職課程ガイダンスを受講し教職課程の履修方法やカリキュラムの全体像を把握するとともに、教職に対する意欲や関心を高め、教員に求められる情報活用及び外国語コミュニケーションに関する基礎的な知識や技能を身につける。
	後期	機械工学の専門の基礎となる4つの力学（材料力学・機械力学・熱力学・流体力学）の基礎的な概念を理解し、電気回路、プログラミングに関する基本的な法則と理論の正しい理解や分析方法を修得する。さらに、憲法の意義や役割を理解するとともに、体力の増進を図り、心身ともに健康な生活習慣を身につけ、スポーツの意義を学ぶ。また、教職の意義や教員の職務内容を理解するとともに、教員免許状取得後の進路選択についても具体的に考え、高等学校教員に求められる心理学的知識や生徒理解に関する基礎理論を修得する。
2年次	前期	工作機械を使用し、機械やロボットの部品の加工方法を身につけるとともに、交流回路の法則、解析方法および二端子対回路を学び、直列、並列や複合された電気回路に関する基本的な法則と理論の正しい理解、電気回路の分析方法を修得する。また、工業概論によって、工業についての全般的な知識を修得する。さらに、教育の理念や教育に関する歴史及び思想を学び、教育という行為を原理的に把握する。併せて、教育課程の意義を理解するとともに、学習指導要領の内容や歴史、動向を学び、高等学校のカリキュラム編成に必要な方法論を修得する。また、高等学校における生徒指導や進路指導の理論及び方法を修得し、現代の子どもたちが抱える諸問題を具体的に理解する。
	後期	電力・エネルギー及び電気電子材料について重点的に学び、電力システムの各要素の概要を理解することで、電気機器の運用や系統制御の現状、日本・世界のエネルギー状況に関する基礎的な内容及び電気電子材料についての基礎知識を修得する。さらに生徒の自主的かつ主体的な活動を促す理論と方法を修得し、生徒指導に関する発達心理学的知識を獲得する。なお、道徳教育に関する基礎理論を学ぶとともに、道徳の指導法を身につける。
3年次	前期	機械やロボットを設計する上でのより専門的な知識を修得するとともに、機械やロボットの運動やその制御に関する技術を修得する。また、通年科目の「職業指導」によって職業の基本的・応用的知識（キャリア発達・教育）を修得する。さらに板書やあいさつの練習を重ねることによって、教育実習生として当然身につけておくべき適性や資質能力を獲得する。併せて、将来教員として生徒や保護者と教育相談を行う際に必要なカウンセリングの理論と技法を身につけ、指導案作成や教材研究の方法を学んだ上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力を養う。
	後期	4年生に配当されている卒業研究を実施するうえで必要な、文献等から情報を収集する能力や問題発見能力、ならびに問題解決能力を身につける。さらに、現代日本の教育制度を支えている教育法規の内容や意義を正しく理解するとともに、教員として必要な遵法精神を身につけ、西洋の教育史を専門的に学ぶことによって、現代及び今後の教育のあり方を模索するための知見を得る。さらに、自ら計画的に指導案作成や教材研究をすすめた上で実際に模擬授業を行い、教員に必要な教科指導力をさらに向上させる。
4年次	前期	実習生としての心構え・実習に関わる文書作法・コミュニケーションの流儀などを教育実習前に学ぶとともに、教育実習中の教科指導や生徒指導の経験を事後的にディスカッションするなどして、教育実習という貴重な経験をより充実したものとする。また、教育実習中は、学校教育の現場に身を置きながら教員としての適性を自ら厳しく審問するとともに、教員として必要不可欠な実践的指導力の基礎を修得する。
	後期	履修カルテを活用しながらこれまでの教職課程における学びを振り返るとともに、授業参観・模擬授業・ロールプレイング・現職教員による講義などの実践的なプログラムを通じて、教員として最小限必要な資質能力を身につける。また、教育実習を振り返り、教育実習中の自己を分析、評価することで、教員としての自覚を養う。

様式第7号ウ（教諭）

＜機械電気創造工学科＞（認定課程：高一種免（工業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		機電工学基礎		日本国憲法A	基礎数学
					スポーツ科学演習A	基礎物理
					Listening & Speaking I	プログラミング基礎 I
					Four Skills I	物理実験
					TOEIC Basic A	
					TOEIC Plus A	
					AI導入	
					プログラミング導入	
	後期	教職論	機械四力学基礎		日本国憲法B	機電数学
		教育心理学	電気回路 I		スポーツ科学演習B	デザインエンジニアリング
					Listening & Speaking II	人間中心設計
					Four Skills II	エンジニアスキル
					TOEIC Basic B	プログラミング基礎 I
					TOEIC Plus B	機電プログラミング
2年次	通年	工業科教育法				
	集中	教育社会学				
	前期	教育原理	工業概論		Listening & Speaking III	物理学
		教育課程論	電気回路 II			エネルギー学 I
		生徒指導論(進路指導を含む)	メカトロニクス			流体力学
		学校発達心理学	機械工作法			通信システム工学
			電気電子基礎実験 I			
			メカトロニクス実習			
			機械力学			
			材料力学 I			
	後期		機械製図			
			電磁気学 I			
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	制御工学	道徳教育論	Listening & Speaking IV	技術者倫理
			材料力学 II			電気工事実習
		機械材料			エネルギー学 II	
		電気エネルギー概論			3Dモデリング	
		電磁気学 II			機械加工実習	
		電気電子計測 I			デジタル回路	
3年次	通年	職業指導				
	前期	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	機械工学実験	同和教育論		伝熱工学
		教育相談の方法・技術	電気電子計測 II			コンピュータグラフィックス応用
						半導体デバイス工学 I
	後期					電子デバイス工学実験
		教育制度論		教職特講		エネルギー変換工学
		教科指導法 I (工業)				機械工学シミュレーション
特別な教育的ニーズの理解とその支援					ロボット機構学	
					機電工学探求	
4年次	集中	教育実習事前事後指導				
		教育実習 I				
	前期				機械・ロボット設計	
	後期	教職実践演習(中・高)			設計製図	